

1 日 時 平成22年2月22日（月）午後1時30分～4時

2 場 所 府中市生涯学習センター

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

西勝 義恵、坂本 明美、澤井 幸子、設楽 厚子、芝 喜久子、白井 紀子、  
鈴木 映子、寺谷 弘壬、奈良 覚、平形 芳郎、比留間 一磨、三宅 昭、  
山内 啓司

（2）職員4名

文化スポーツ部長

齋田文化スポーツ部次長(兼)生涯学習スポーツ課長

山村生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、大木

（3）傍聴1名

高橋 成忠

4 開会

- ・ 部長より挨拶（割愛）

5 連絡・報告事項

（1）傍聴について

（2）配布資料の確認

（3）報告事項「地域教育フォーラム2010」

- ・ 参加した鈴木委員より報告。

1月30日に地域教育フォーラム2010ということで「地域企業と学校が連携し、子どもたちの実社会、実生活に生きる力を育もう」という大きなテーマであった。

第1部が教育支援プログラムの事例紹介ということで、最初の事例がキャリア教育プログラム、「ジョブシャドウ」とはというテーマで、1人の社員に対して1人の高校生が数時間影のようについていて、その社員の打ち込む姿勢に触れる体験をするということだった。この影というのはシャドーということでジョブシャドウと言われているが、高校生の体験の感想でもって本物のマーケティングを見たとか、あと自分が仕事をこなせる人になりたい、あと物の見方、考え方が広がったというような感想があったとのこと。このジョブシャドウの目的は、仕事を見るのではなく仕事をする人を見てほしいという事例報告者のお話だった。

2つ目の事例が、「科学好きの子どもを育てよう」ということで、理科コンテンツを開発する若手企業家の取り組みということで、その方は身近な不思議を興

味に変えるということをもットーにして先端の科学実験を出前教室で行っている。研究者が子どもたちに直接伝えることによって、また意義が違うのではないかということだった。

学校単位でプログラムを実施し、学校の指導案にあわせて教室で行うので、教育と遊離しないでやっていける。継続的にそれを行うことによって、企業と連携した理科授業を行うことに対して産業界と教育現場をコーディネートすることによって次世代の育成、また社員育成、地域貢献をしている。同じ地域の企業研究者が学校の中で実施することで、子どもたちの企業への理解が図れるという利点があったということだった。

それから3つ目の事例では、高校生と企業CSRチームが連携をしたら社会が身近になってきたということで、CSRというのは企業の社会責任ということで、それで生涯学習課が企業と連携した社会貢献活動にかかわる学習支援プログラムというものの参加校を募集したところ、都立の三原高校が応募して、ユニクロと三原高校とが事業のプログラムを開始した。ユニクロでもって不用となった商品とか衣料を無駄なく活かすことを目的として、みんなで集めて、それを国連難民高等弁務官事務所の協力を得て回収した衣料を、その回収した衣料の中の9割をネパールやエチオピアなどの世界の難民キャンプに贈る事業をやった。それは高校生が授業の一環でユニクロの不用衣料の回収をPRして、また地元の方にもPR活動して、地域全体を巻き込んで衣料の回収を行った。集めた衣料は仕分けをして全部で5,300着を、去年難民キャンプへ寄贈して、そちらの国の方たちにとっても喜ばれた。それを文化祭でその経過などを発表した。

全商品リサイクル事業を通して環境や社会が抱えている課題を知ってもらい、企業が行う社会貢献活動のあり方を理解させ、頭の中だけの理解だけでなく、参加型プログラムとして展開することによって子どもたちに現実社会を体験してもらって、高校生自身が自分たちが社会に役立ったという喜びを感じたということをお話されていた。

それで今までは事例だったが、第2部は「地域教育が切り開く子どもたちの未来」というテーマで、地域、企業と学校が提携し、子どもたちの生きる力を育むというタイトルだった。東京都の教育支援部長の松山さんという方が、これはパネルディスカッションだが、地域関係者、NPO、また企業に期待することは、子どもたちにさまざまな体験をさせてやってほしいということ。教員を支えつつよい刺激を与えてほしい。また地域から教育支援の輪を広げてほしい。さまざまな人々がさまざまな形で子どもたちの教育にかかわっていくことを願っているというお話だった

それから2人目の方は、パナソニックの国内推進室長という方で、CSR、企業の社会的責任ということだったが、企業の社会的責任としての次世代育成の取り組みということで、企業、市民活動としての取り組みとして体験型学習施設の設置をしている。「理数ピア」という理数系を楽しむ体験型ミュージアムを設けている。それから「ファイナンスパーク」という、経済の仕組みを学ぶところと、それから出前授業を行っている。真の学びにつながる内容の提供を行う。これは

企業でなければ絶対できない強みを活かした教育貢献をしていっている。

それからあと3人目の方で生重さんという方で、NPO法人スクールアドバイス・ネットワークの理事長さんという方がお話をくださったが、この方はキャリア教育コーディネーターの必要性を力説していた。キャリア教育というのは、その実施を通して青少年一人ひとりの個性、特性を見極め、将来の進路と日々の教育活動の意義を結びつけ社会的自立に向けた力を育てていく。今、ニートとかフリーターとかが増加して、また非常に就職ができないとか、また就職難民になっている方がふえているということで、小さいときから働くことについて、子どもたちもどんなことかとか理解してほしいということを目的としている。キャリア教育コーディネーターは学校、企業、地域を結びつける役目を果たす役割をしている。

私がお話を聞いて感じたことは、これからの学校は地域、企業と連携して三位一体となって未来ある子どもたちの生きる力というのを育てていかなければいけないと思った。大人の私たちがさまざまな経験をして今まで生きてきたわけだが、それを生きてきているいろんなことを学んで培ってきたことをどんな形でも子どもたちに伝えることが大切なのだということを実感した。これもやはり一種の「学び返し」ということだと思う。その力が大きいのではないかということを感じた。

[ 意見の趣旨 ]                    : 委員        ➡ : 事務局

ありがとうございました。たくさんの内容で、充実して...

鈴木さん、それは全部で何時間ぐらいの会議ですか。

3時間ぐらいです。

これ都教連の事業ですよ。都の教育委員会ですね。生涯学習部か何かの。

東京都教育委員会の地域教育推進ネットワーク東京都協議会。

ここが主催をしたイベントですよ。関連してちょっと質問したいのですが、本市の、要するに府中市にも企業がありますよね。今、この事例で似たようなことで、小学生、中学生、高校生といろいろあるのかもしれないが、企業が学校の体験活動だとか、そういった形で取り組んでいる事例というのは、事務局の方で何かとらえている事業はあるか。企業の方で。

NPO法人で取り組んでいるところがある。それをお聞きしたことがあるが、企業でというのは、就職の関係なんかのときに体験的な受け入れをされているところはあるようだ。

スポーツの分野であるのではないのでしょうか。

タグラグビーなんかでサントリーさんとか東芝さんのラグビー部が指導に行ったり、FC東京のサッカーが、授業中に選手を派遣するということをやっている。私、個人的には、東芝の中でこれに似たような中身に近いことをやったのを小耳

にはさんだことがあるので、事務局の方でどういうふうにその辺はつかまれているのかと。学校教育か環境教育…

- ➡ それはあるかもしれない。我々の方の所管でいけば企業ではなく大学との連携はやっており、外国語大学とか農工大とかは連携講座をずっとやっている。また 22 年度からは明治大学と連携講座をスタートさせる。

#### (4) 報告事項「第5ブロック研修会(勉強会)」

##### ・参加した各委員より報告

土曜日にこの建物の中で東京都市町村社会教育委員会の連絡協議会第5ブロック研修会ということで、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市から全部で事務局の方を入れまして27名集まり、会議を開催した。

府中市がやはり一番参加者が多くて11名、一番少ないところが武蔵野市の1名だったが、正直言いまして生涯学習審議会委員というふうな肩書があるのは府中の委員だけで、あとはみんな社会教育委員だった。これが私どうしても気になり、この週末ずっと辞書、百科事典調べて、社会教育と生涯学習とは一体どういうふうに違うのかと思って調べたが、どうも私、生涯学習のことだったら非常に関心があったが、社会教育というのはより広い範囲で仕事をしようと言われたらちょっと戸惑う。やりたくないという意味ではなくて、それはちょっと違うのではないかというような感じがしてしょうがなかった。皆さんどういふふうにお感じになっているのか知らないが、社会教育というふうになるとどうしても学校教育とかあるいは家庭教育と肩を組んでやっている感じがする。

これは私の思い間違いかもしれませんが、生涯学習というと純粹にというのもちよっと問題だが、技術的なことばかりをやって事が済むのではなからうかという気がした。つまり人生を有意義に過ごすために今までできなかったことを学習する、そしてそこで学習したことをまだその道に進もうとして関心があるけれども、とば口にいる人たちに「学び返し」という形で伝えていくというふうに簡単に理解をしていたが、どうもそれでは済まないような感じがした。

研修会自体は、最初の1時間ほどで全体会議ということで、その後3つのグループに分かれて世代交流について、それからミドル対シニアについて、それから学び返しについてという3つのテーマに分かれて議論した。

私は世代交流のグループに入ったが、結局結論としては、世代交流は非常に難しいというのが、幾つもの町から集まった方々の総合的な意見であって、Bグループ、Cグループの結果の発表になった。

Bグループのミドル対シニアに関しては、とにかくお互いを立てながらゆっくりやることで、成果が上がるのではないかという結論であったようだ。

Cグループの学び返しに関しては、とにかくこれが一番生涯学習そのものの内容に迫るようなお話をなさったと思うが、ネットワークづくりをとにかく推進しないといけないということであった。

団塊世代は難しいという話が出たが、それをしてやっていくには、それぞれがお互いの立場を理解してやっていかないといけないのだろう、という私自身が参加しての反省だった。ですからやはりお互いに立てて、シニアは少し下がって見てあげるといふ感じで、いつまでも俺が俺がというような感じではなくて、立てながらやっていくというのも世代間交流の必要な要素だということも感じられた。

お互い、シニアは余り出しゃばらないようにして。基本的には、一生懸命やっていただくのは、ミドルの人がいろいろ中心になってやっていただければいいのではないかと。シニアはそれのどちらかという相談役みたいな形で、自分たちも参加しながら、いろいろ足りないところは補ってあげるとか、そういうような形をしないとなかなかうまくいかないのではないかとというような話だった。

Cグループだけではないが、それぞれ地区が違って事情がみんな違った。それぞれの地域で。そのためにこれから審議会等を設ける、交流会を設けるのはネットワークが必要ではないかと。各地区のこういうアイデアがあるということをもみんな集めて、それをそれぞれのところに回していただくというふうな、メールのようなもの。そういうことをやっているという学び返しということを含めて、やはり向上するのではないかと話された。

全体会議の流れの中でいろんな人が感想を述べたが、この前、狛江でやった研修会の反響みたいなものがちょこちょこ出ているので、そういう紹介をしたい。狛江市の社会教育委員の会は、従来教育委員会から諮問とか、意欲的な提案を受けない状態の中で仕事をやってきたが、去年答申を出すことで距離が縮まり、協力し合う関係になっており、殊に今回はブロック会議を開催したことがきっかけで、教育委員会が発行する「狛江の教育」の紙面で研修会のダイジェストが非常によく紹介されている。

ホームページを出している中川信子さんという発達障がいの理解を深める活動をしている方のホームページの最後に、「学び返し」という言葉が使われるようになっていて、社会教育、公民館活動などの中で市民として学んだことを今度は地域に具体的に返していこうという動きであることを説明している。これはだんだんその言葉が浸透してきているという1つのあらわれといえる。

それから調布市が世代間交流や家庭教育についての問題点を入れた演劇を大学1年生が出演して約1時間の演劇を行った。それについての反響とか意見とか出ていた。

よその町の中で、狛江の教育委員会あるいはどこで言われたか、学び返しという言葉が使われている方がふえてきたということで、だんだん「学び返し」が府中の外に出始めたなというのはちょっと実感して帰ってきた。

## 6 審議事項

### (1) 前回の議事録の確認について

事前に校正をいただいたところを赤字で修正。

審議会の中で一部校正をいただき、市民に公開することが了承された。

### (2) 中間答申(案)について

事務局より説明。小委員会で作成した中間答申(案)を事務局が読み上げ、以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨]                   : 委員       ➡: 事務局

- ➡ 先ほどちょっと資料紹介のときに漏れまして、先ほどの中間答申まとめと同時に、先ほど委員の方からお話ありましたが、「はじめに」というタイトルになっている。これは、皆様から赤字というか校正いただく前のマスターの中間答申です。余りにも皆さんの意見をまとめた中では真っ赤になってしまったので、真っ赤なものを左の方に置いていただきながら見ていただくといいかと思ってつけたので御利用いただきたい。

中間答申のまとめというふうに書いてある方をごらんください。黄色の部分は各委員の意見で、こういうふうに直してくださいというのではなくて、これはこうなんじゃないのかという意見を黄色の部分でやってある。それからもちろん赤い字のところはこういう言葉を入れた方がいいのではないか、あるいは赤で傍線を引っぱっているのがある。これはここを削除した方がいいのではないかというふうになっているところ。

それからわかりにくいのですが、グレーの囲みがあるところ。これにつきましては、複数の委員が手を入れて、同じ箇所に手を入れているので、意見の食い違う部分がある。それはグレーで囲ってあり、2行併記という形になっているところなので、今から説明しながらこういう意見とこういう意見がありますということを確認していく。

最後に囲み部分については、黄色の部分の意見はこの部分がわかりにくいとか、この部分がこうだという、あくまで意見なのでそれほど気にされなくて結構です。

私たちが初めてなので、事務局の方から進行していただけるか。

その前に1つだけ、時間的なことで。今日これ最後までチェックしないとまずいのか。

3時半とはなっているが、延びても4時までで終わらせていただけたらと思う。

- ➡ まず「はじめに」の部分。最初にお断りしておくが、先ほど確認していただいた、前回議事録に沿ってすべて修正したものをお渡しして、それに赤を入れてもらったものなので、それについては触れない。

まず「はじめに」の部分は、黄色の部分、2つ意見があった。最初の部分は、もう少し平易な表現にしたいということ。それからその次、「学び返し」以降につい

ては、一文としては長いのではということ。確かに2つ目の部分は少し長いので、切った方がよければこちらで検討させて切らせていただく。内容を変えないで。

内容を変えないでもう少し平易な表現と、それから短くするという部分なのか。

➡ もちろん会長さんと相談しながら。

いやこのままがいいという部分はあるか。

線で囲んだものの2行目に「具体的化に向けてを受けて審議会で」にしてもいいのではないかと。「受けたことを踏まえ」なんていうのは必要ないと思うが。教育長からの諮問を受けて審議会でこれまで審議してきた内容をもとに推進計画の基本目標について課題展開として、それほど複雑な表現になっていないような気がする。ただその次は長い。

これをまとめたときには、この答申を皆さんのところに出すために前文が、やはりわかりやすい前文が必要だろうということをつけ加えたので、この辺が皆さんの御意見の中で長いということと考えていらっしゃるとしたら、もう既に審議の内容が皆さん頭の中に入っていますので多分長いと思われるのだと思うが、初めて見たりなんかで本文を読んだ方にすれば決して長くはないのではないかと、私はそう思っている。

➡ 長いというのは一文としてということでは...

区切るということか。

➡ 例えば2段目の「学び返し」の趣旨を踏まえてということはあるが、その真ん中辺で、「云々かんぬんで、できるのが生涯学習の本来の姿である」で1回切ってというような形。

それからもう1つ、この答申は、だれの立場から出す答申なのか。要するに一般市民、行政。

➡ この生涯学習審議会委員。

行政に対して出す。

教育長に答申をする形。

市民の立場からということか。

私たちは市民の立場から。

中にやたらと丁寧な言葉がある。

この中間答申はやはり外に向けて出するのか。

➡ もちろん出る。

開示されるか。

➡ 開示はもちろんされる。

よろしいか。どこか区切る部分はつくるにしてもこの文章で。よろしいか。

カットしたいのだが、「であることを念頭に置きながら」と、そういうことは念頭に置いているに決まっている、書く人は。考える立場のときは。ですからそれはいらぬのではないかと思う。

➡ もし真ん中でさっきのところ切るとしたらここはなくてもいいかなと思うが。

ただやはりこれは市民も見るものだから、ある程度わかりやすく書いて差し上げないと。私たちは、やはりある程度のことは書いてないと理解できないという部分

が。1ページはよろしいか。

- ➡ 2ページ上から5行目。年々増加傾向にある。これは皆さんこういうふうを書いてあった。

これは年々利用があって「利用は」は前の中間には入っていたような気がする。「利用は」はいらぬのか。

これは利用じゃなくて関係団体がふえているというのにしたのか。

- ➡ はい。年々増加傾向にあるということ。それからまたこれらのほか文化団体連絡協議会（以下「文化連」という）での月1回役員会、グループごとの行事、そしてさまざまな学習機会が提供され活発に文化活動をしているというふうに文章を直した。

赤い文字の上に線が入ったらはずすということか。

- ➡ はい。推進計画とあるが、これは最初に第2次生涯学習推進計画と書いてある。括弧で（以後「推進計画」と呼ぶ）というふうに言っていますので、これで統一ということで一たんさせていただいている。

では次の「活躍する人々、それから地域のさまざまな行事でリーダーシップを發揮し、お囃子等の伝統行事も受け継いでいる。しかし、地域によっては多くの世帯が自治会に加入したものの、積極的に交流しようという機運が生まれていないところもあるという。そうした地域の中でも一部には、こここのところは両論併記のところでもややこしいので、まず一案は、「そうした地域の中でも一部には朝の挨拶やスポーツ等で交流を深める取り組みを行っているところもある」というふうに省略するのが一案で、もう1つの案は、「すべて朝の挨拶や町会でコミュニティ協議会と相談して親睦委員会をつくった」というふうにそこを生かしたのと2つある。

最初の案がいい。

それからコミュニティ協議会というのは出てこなくなる。

それから「と相談して親睦委員会をつくった」というのを入れるか入れないかだが、すっきりするのは前の方だと思う。

多分これは私が発言した内容なので、「町会で」ということに直していただきたい。コミュニティ協議会には相談していないので。

そういった地域の中でも一部には朝の挨拶や...

- ➡ 「挨拶や」は、短くする。「挨拶程度は交わすようにと町会で相談して親睦委員会をつくった」。

次に2の課題、1の団塊の世代の生涯学習への参加のところ。下にかぎ括弧があるのは「トルツメ」でお願いしたい。

真ん中辺、「学び返し」を実践するためぜひ地域の活動に参加してほしいという願いが多く聞かれる。これは漢字をひらがなにひらく。

それから次に、「仕事をしてきており、今後退職後に」というところを、「きて」をひらがなにひらいて「今後を」取る。その下のところ。形で地域に入ったらよいのか。「よい」というのを逆に今度は漢字にした方がいいという意見が出たのでそうになっている。ここはよろしいか。

それでは3ページ。地域での「学び返し」への参加。自治体の活動に全く関心



を持っていないわけではないが云々とあり、それからその段の最後の行。「どう参加のきっかけづくりをするか」、これはつくるという字を漢字の作文の「作」にするか、創造の「造」にするかあるいはひらいてひらがなでやるか、どちらかということ。

ひらがなにする。

- ➡ 次に、学校と地域の連携。これは子どもたちの赤は入れた方がいいのではないか。子ども教室で指導したり、子どもたちと遊んであげたりというのも「学び返し」\_\_\_\_\_と、捉えることができるが云々とある。

次に、その下、黒い字の最後のところ。「しかし、昨今の社会的環境の影響などにより、受け入れ先の機関、短縮等課題もある。」これは職場体験の話。

その次、また引き続き、「スポーツや伝統文化等を通して地域の人々」。これは2つ案があり、最初が「地域の人々による教育（しつけ）等も有効ではないか」。もう1つの案は、そもそもしつけというのが、意見が下にあるが、最初に「だれにでも強制されるべきでなく」というふうに「はじめに」の中で文言があるごとくしつけというのはちょっとまずいので、例えば「地域の人々によって子どもたちの肉体的、知的、文化的発達を促され、それがマナーの醸成に結びつけばなおよい」というふうに変更されたらいかがか。しつけというのは響きだけではなく実際の罰が伴うので、不適當という意見があって、しつけという言葉を使うか使わないか。あるいはこの表現をもう少し和らげるかということなのですが、いかがか。

それにしてもスポーツや何やら「引き続き」は必要ないという気がする。

「引き続き」は取って、「また、スポーツや伝統文化等を通して地域の人々によって子どもたちの肉体的、知的、文化的発達を促され、それがマナーの」と続けてよろしいか。

第2案で良い。

「肉体的」というのは「身体的に」というふうに。

- ➡ 「引き続き」取りまして「身体的」にして第2案の方で行きたいと思う。では展開の1、3行目。地域を初めとしたコミュニティ環境に融合できないといった事例が見られ、大事なことはそのきっかけづくりであるというふうに。

「みられる」はよろしいか。「みられることが」でなくて。

「みられ」でよろしいか。

- ➡ 「様」と「よう」、これも漢字とひらがなどっちかだが、どっちにするか。積極的に参加するようになってきたという...

今の常識的な表記に従えばよろしいのではないか。

ひらがなで。別に関係ないという指摘があったので、ひらく。

4ページ。「学び返し」というのは子どもだけが対象ではなく、大人と子どもとの間にも必要である。地域の担い手となるファシリテーター、これは御指摘があったので、ファシリテーター、下に注が入れてある。なる人たちの育成を、ここで意見があったのは、「半年か1年間ぐらいかけて」は取ってもいいのではないかと。つまり半年、1年でファシリテーターが育成可能なのか疑問という御意見があった。育成を行うシステムをつくっていければよいのではないか。このところはいかがか。

- 期間は入れない方がいいと思う。
- ➡ 「半年か1年くらいかけて」は取るということで。  
「よい」は漢字でいいか。  
どっちかに統一しないとまずい、いずれにしても。
  - ➡ ひらく部分とひらかない部分とあるかと思うが。  
つながりで読みやすいということを考えるとひらかない方がいいということもある、漢字の方が。  
「よい」もひらがなでひらくというふうに一括変換したらどうか。  
全部ひらくということで。
  - ➡ 全部ひらくと、いろんな問題出てきて。  
つながぎを考えてもらって。  
ここはひらがなでいいと思う。よしあしじゃないから。  
ひらがなの「よい」で。
  - ➡ ではひらきます。その次、その下の下。生涯学習はプロになる道ではなく自分が進んでいく道を決めるきっかけづくりであるので、「学習のプロを育てるのではなく」というところは消してあるが、これはよろしいか。  
「学習のプロを育てるのではなく」という説明は消してよろしい。
  - ➡ 次の 学校行事及び体験学習、放課後子ども教室等を実施する中で多くの学びの機会が生まれている。ここで1回切りまして、「この場を活かし、「学び返し」の拡大の中に生涯学習を推進する仕組みをつくるのが大切ではないか」というふうにして、そこを部署とか、学校や地域等などということを書いている。  
5ページにいきたいと思う。居場所づくり。ここで最初に問題になったのが、「学校における居場所として」であったが、意見として、このような表現でよいのかという。つまり最初に出てきているのが学校に限っているの、この文章全体の中では学校だけじゃなくて、学校以外の地域における居場所ということも書いてあるから学校における居場所は取った方がいいのかということですが、いかがか。  
限定しなくてもいいということか。学校以外の居場所も出てくるのか。  
これは居場所としての学校というふうに書いてあるのか。
  - ➡ 例えば生涯学習の、例えば居場所の1つとして学校開放があるというふうに書けばつながると思うが。  
しかもタイトルが居場所づくりなので、学校には居場所としてのどういう機能があるかということ。学校としての居場所、地域としての居場所と分けるようになってしまうと、今度はこれからずっとそういうふうに分けていかなければならない。  
居場所だけを残すか。頭は取って。  
居場所として市民への学校開放があげられる、つなげるということか。
  - ➡ ご意見で、居場所だけではわからないのではないかということがあった。「生涯学習のための居場所の1つとして市民への学校開放が上げられるが」でいいか。  
はい。
  - ➡ それから地域子ども広場事業19校というふうに書いてあるが、私の方で学校総務課の方に電話したときに、「地域子ども広場事業」というのはないというふう

言われた。これちょっと私どういう経過で入ったのかわからないが。

ほかの子ども教室のことだけで大丈夫か。いらないのか。

- ➡ 放課後子ども教室22校ということで、ここ取らせていただく。主な開放場所としては、体育館と校庭であって、「主な利用者としては」というところは取ってあるが、そこを「主として」と書いてある。昼夜を問わず居場所づくりに協力しているというふうに、簡略化でよろしいか。

居場所をつくりの漢字はどうするか。やはりひらいた方がいいのか。

- ➡ そうですね。居場所づくりでひらこうか。「つ」と「づ」とどっちにするか。ちょっと調べて...

学校開放というのと放課後子ども教室というのは同じことなのか。

- ➡ 違う。

別に学校開放というのは学校ごとに委員会みたいのがあって、それは大人も含めた団体さんの方、例えばPTAでやっているとか。そんなものが実際に行われている。だからこれとこれはイコールではない。

- ➡ イコールではない。

どちらも22校はやっているのか。

- ➡ 小学校は22校、全校でやっている。

学校開放の方をやっていて、なおかつ子ども放課後教室もやっているということか。

- ➡ はい。先ほど次長からも指摘があったが、学校開放は小学校だけでなく中学校もやっているので中学校も入れる。放課後子ども教室は小学校しかやっていない。

小中で20何校とか30校とかそういう数になるのか。

- ➡ 中学校は11校だが、全校やっていると思うが、確認する。

確認していただきたいと思う。小中何校でも大丈夫か。

- ➡ わかりました。そこはそういう形で。それからこれ現状ですので、3段目の下から2行目、「福祉の面での居場所として生涯者福祉の領域では地域生活支援センター等もある」これもよろしいか。

そののところ何かごたごたしていないか。福祉の面での居場所として生涯者福祉の領域では地域生活支援センター等もある。「障害者福祉の領域では」は取ってもいいのではないか。「福祉の面での居場所としては地域生活支援センター等もある」と。

福祉の面での居場所として地域生活支援センター等もある。

あるいは地域生活支援センターの前に障害者という言葉を入れてもいいのか。福祉の面での居場所としては障害者地域生活支援センター等もあると。

そうすると障害者に限られるのか。

ここで「等も」ということはいろんなセンターがということか。

ここで障害者という言葉が消してもいいか。

福祉の中に含まれるのか。

もちろん含まれると思うが、それだったら大きくそうやってくくれるが、福祉の面での居場所としては地域生活支援センター等もあるというふうに。福祉部の方が

ら文句が出ないような気がするが。

福祉の面ではここだけではない。もっとほかにある。場所として。

高齢者の施設があると思う。

障害者とは限らない。

そこはつけ加えないとまずい。

なので、つけ加えるか取って簡単におおざっぱなくくりにするか。

居場所づくりとして福祉の面もあるから、福祉の面も入れておかないと偏りだと言われ兼ねないかもしれない。

- ➡ ただこれ最初に生涯学習のための居場所としてというふうにしたから、余りにも範囲を広げると、あれもこれもとなると...

福祉という大きなくくりでさせていただく形でよろしいか。

生涯学習の居場所として重要な場所というのは、学校なのか文化センターなのか。この文言で言うと、まず我々としては学校という認識をここに示せと言った。あとほかに上げるとすると文化センターみたいな言い方になっている。市の方の予算的なものだとか、活動だとか、現状認識も含めての部分だから、そのとらえ方として生涯学習の居場所として一番初めに上げるべきは文化センターでの活動というふうなとらえ方でなくてもこの形でいいのかどうか。

我々の関心は確かに学校というところはすごく1つのポイントとしてあると思う。あとのいろんなことと絡んでくるが。どうなのかということちょっと。

- ➡ 結局この答申全体で、地域と学校の連携、あるいは家庭・学校・地域の世代間の交流、そういうことが全体になって皆さん御議論いただいてきたので多分学校がかなり入ってきている事情があるかと思う。

そういう認識でここは中間答申として出すということで共通理解というか、そういうことでいいならばそれはいいが、何となく府中が、文化センターでの活動ということがかなりいろんな意味で自治体としてさまざまな実績ある。だからその辺の認識の仕方。現状だから、とらえたときに文化センターの活動と学校とどうとらえているのかという話になったときに、こんなに違うとどうかと思って。

通常居場所というと青少年の居場所というのがまず。ですからこの文章から見て障害者の方の居場所をここへあえて入れる必要があるのかどうか、まずあると思うが、学校というのは基本的に青少年というか児童たちの居場所でなければいけないから、あえて学校をさきに目指す必要があるのかどうかというのはもちろん議論になってくると思うが。

ただ「学び返し」という部分の中で全体が流れていくといいと思う。やはり子どもたちの居場所はもちろん学校でもあるし、だから居場所というかそういう学校というものを利用しながらの生涯学習、そういったことが...

思いつきだから無視しても....

文化センターというのは既に周知の事実という形で私は受け取った。

どうしても居場所というと子どもの居場所というイメージで出てきている。ただ大人の居場所も必要。疑問だったらどんどん言っていたきたい。全部その個人が言ったことが取り入れられるかどうかわからないが、どうぞ気がついたところはお

っしゃっていただけたらと思う。

このページだけさきに終わらせていただきたい。

- ➡ 課題の1、括弧を取っていただきたい。それから市内各地域のお囃子や囃子保存会があるが、古くからの住民がかかわっている場合が多く、ここで2つある。「新しく住民となった人たちが参加しにくいという側面もある」が1つで、もう1つは「新住民が参加しにくい」というこれは言い方だが。

これ提案したのは私だが、それで先ほど質問した。これはだれの立場からの答申を出すのかという質問がここにかかってくるわけで、行政が答申を出す、あるいはそれに積極的にかかわっているとしたりやはり住民を立てるような丁寧な言い方をしないといけないと思うが、方とかなんとかというのはこの際は遠慮してもいいのではないかという感じがするので、古くからの住民、新住民というふうに言い切っているのではないか。

「新しく住民となった」と入れるか「新住民」とするか。

私はむしろここいらないかなと思って、ここの部分は、1という部分はいらんかなという。すべてこの1の項目が。

全部か。

はい。いらんかなという気はしていた。書かなかったが。古い方と新しい方との確執というか、そんなことはその地域内で。

あるところとないところがある、地域によって。

その中で解決すべきものではないかなということ。

その住民の方にとっては大きい。この課題は。

今、これを読んでいて、オリンピックやっているカナダでも古い住民と新しい住民で確執があるようだ。新住民という言葉がいいのかどうか。

やはり駅の周りが、大国魂神社を中心とした地域にずっと長く代々住まわれている方とはそこら辺にいっぱいマンション群が建っている。新しい人がいっぱい入ってきている。あの辺のところに実はこういうのがあつて活動していくと、ちょっと動き出すとうまくなならないような事情があつたりして困ったという声も当然あるだろう。今まで以上にむしろこの辺の課題は大事になってくると思うが。皆さんで仲良くしていくのにどうなのかと言ったときにポイントの一つになる。

あるいはこの番号を替えて、学校と地域、住民とを結ぶ体験学習のさらなる充実を1にして、最後に順番を替えて入れるとか。

それはいいと思う。

それで少しとげを抜くと。

- ➡ 1番を6番で繰上げにしようか。新住民をやめるか。

「新住民」というのはいいのではないか。それに替わるいい言葉もないし。

別にいい。差別用語でも何でもない。私も新住民だから、全然そういうふうに言われても。

「新住民」でよろしいか。

- ➡ わかりました。「場合が多く、新住民が参加しにくいという側面もある。」これを6番にする。

ちょっと5分休憩させていただく。

(休憩)

それでは5分経過したので会議を開かせていただく。

- ➡ 5ページの展開のところから。展開の、これはくどいということで、「次世代に継承するため」の「次世代をつなぎ」の部分の部分を削って単純に「伝統文化を次世代に継承するため、地域における学習情報の収集と提供を行う」でいいのではないか。ただここでもう1つの案があったのは「伝承」という言葉の方がいいのではないか。「継承」じゃなくて「伝承」。「伝承」でよろしいか。

「伝承」の方がいいと思う。

そうするとこれから先いろいろ出てくるかもしれない。

- ➡ そうですね、似たような言葉は出てくるが、「伝統文化を次世代に伝承するため、地域における学習情報の収集と提供」となっていく。

番、ここがちょっとややこしいので「学び返し」をするには、省略の方から。「学びの出会いをどのような場に設定するかが特に重要である」これは「どういう」が「どのような」ですね。それで削る案はそこ3行ぐらい取ってしまい、「地域の大人は子どもたちと一緒に学習することが望ましい」というのが1つの案。それを削らないでいいのではないかという案は「重要である」まではいいが、「例えば学校で農家の人が子どもたちと保護者にシイタケやワサビづくりの指導をする、また短歌など日本の伝統文化を学校に出向き指導するなど、地域の大人は子どもたちと一緒に学習することが望ましい」と。農家の人が子どもたちと保護者にといいのと専門家がというふうにもっと言い替えたものがある。専門家がシイタケ、ワサビづくりの指導をする、また短歌など」というふうに、ちょっと幾つか交錯する。要はそこに具体例を入れるか入れないかということが1つの選択肢である。

具体例を入れた方がよろしいか。それともなくても。

余り入れない方がいいのでは。これ入れていくと、「学び返し」の範囲がどんどんどんどん狭くなっていく。だから何か習わないと「学び返し」できないという話に行かないか。余り具体的に入っていると。それじゃあ本当にそういうことだけでいいのかということとそんなこと言ってないと思う、「学び返し」は。余り細かいこと入れない方がいいのではないか。

これからさき具体例というのは、これからも出てくるかもしれない。これはあくまでも中間答申として、もう1回1年たった後に出せる答申があるので、こちら辺も踏まえながら考えていただきたいと思います。

それではここはよろしいか。

- ➡ その赤の3行は取るということで。だから、「重要である」の次が「地域の大人は子どもたちと一緒に学習することが望ましい。」

次ですね、「重要なポイントである」というのをやめて、「要は」は取って、「重要なのはいかに学校を開いていくかである」という案と、それからこれ自体取る案ですが、いかがか。

赤字のところ全体の言葉を取るかあるいは「重要なのはいかに学校を開いていくかである」にするかどちらか。削除した方がいいという方もいれば、「重要なのはいかに学校を開いていくかであるというふうに」を生かしている方もいる。

全校開いているのか。

➡ 学校開放はやっている。

活用するということが大事だということ。

黒字の「子どもには」のところはよろしいか。

➡ ここを取るにして、「子どもには大きな可能性があり、小さい頃からいろいろな体験を積むことによって豊かな体験を持った方たちの御苦勞を伺いつつ、楽しさを教えることで子どもたちは興味が湧いてくると考える」という人もいれば、「子どもたちは興味を持つと考える」という方もいる。

そのこのところの文書が切れると主語が変わっているが、もう少し整理をした方がいいのでは。

事務局。整理していただきたい。

組み立て直していただきたい。

➡ 例えば「子どもたちには大きな可能性があり、小さいころからいろんな体験することが大事である。」で切って、「豊かな体験を持った方たちの御苦勞を伺いながら楽しさを教えることで…」ここ整理します。

ちょっと整理していただく。かなり丁寧言葉も出ているので。

➡ そういう形で整理する。

次、「教える側の大人にとっても今まで経験したことが役に立つことが喜びである」でよろしいか。

はい。

➡ 最後の2行で、「そういった点からも云々」のところを、これも省略した方がいいのではないかという話ですが。

省略する方でよろしいか。

はい。

その黒いところの「受付だけでも」もいらぬ。講座の受付だけでもその行為自体が1つの「学び返し」になるということについては書かなくてもいいと思う。

前も同じだが、例をここでその都度うたっているので、わかりやすくということでこの文の中に入れたが、支障がなければという皆さんが考えればなくしてもいいと思う。

これは子どもに受けさせるという意味か。

➡ 違う。

講座を開くときに、受付業務がいる。それも1つの「学び返し」の1つだということをお願いしたい。

その体験したことを、役に立てたということが喜びだという部分を例えばとつなげたいという意味。

いらぬのでは。

「例えば」からはカット。

- ➡ はそういうことで「喜びである」で終わる。  
、ここもいろいろ議論があったが、「一番心が揺れ動いている中学校卒業時の年に社会に出るきっかけをつかめるとその後も云々」というところは、この認識でよいのかというような御意見があった。したがって、「仲間同士でつながっていけると思うので」という前段のところを全部取ってという御意見と、ですから最初から取っていくと、「次代の社会を担うべき青少年、いわゆる思春期における子どもたちは、家族・社会・地域において居場所となるべき場を見失いがちである」ということでよろしいか。
- はい。
- ➡ 次の「青少年たちが集える中央図書館にあるYAルーム、府中市美術館のティーンズスタジオを利用実績に応じて広めていくことも必要なのではないか」は、いかがか。
- この広めるというのはほかの場所にもそういうものをつくった方がいいということなのか。それともYAルームあるいはティーンズスタジオを拡張するということか。
- ➡ 多分前者、これは。拡張するのは多分難しいと思う。  
中央だけではなくてということ。図書館だけじゃなくて。必要に応じて全部ではなくても。  
世の中の需要的には、いわゆるヤングアダルトルームとか、そういう若者たちの居場所が欲しいという意見が出ている。  
希望的な部分で。  
このティーンズスタジオを全市的に普及することも必要なのではないかというふうにしたらまずいか。  
結構使っているのか、子どもたち。中学生とか高校生は。  
三々五々集まっている。図書館の中で。テーブルが置いてあってそこでもって談笑したりはしている。  
そうですね。だから活動の実績としては、そういうことは広がっていくように、つまり使えると。知らない人には知らせていかななくてはいけないと思う。そういう意味では、こういうものがあるというのは本市の1つの強みである。だから若い人たちがこういうところで、おしゃべりしたり打合わせしたりしていい、ということがわからない子どもたちは別のところにもぐっている。そういったところをどんどん活用していくことを広めていくことが必要だし、また公共施設の中にそういうものをどんどん増やせという提案してもこれはなかなか難しいから、だから活用かな、スタジオの。  
府中市美術館のティーンズスタジオを積極的に活用...
- ➡ 「YAルーム、府中市美術館ティーンズスタジオの活用を促進していくことも必要なのではないか」でよろしいか。ここをそういうふう直す。
- 4番です。最初の行で「文化センターファミリー等、地域の子どもの出番をふやすことも考えてみたい。子どもたちが発表などを行う出番」、ちょっとだぶっているかもしれないが、これは省略でよろしいか。



子どもたちの出番でよろしいか。

子どもたちの出番という具体的な話になると、例えば催しものの中に子どもたちが参加するということというのも1つの出番というふうな位置づけなのか。

裏方でも舞台の上にいる場合でも。

表に立つだけではないということか。

- ➡ 子どもたちの出番にするか、子どもたちの参加にするか。

参加の方がいいと思う。

参加の方が広いような気がする。

参加と出番どちらか。

子どもたちは参加している。3階で利用している。この間も科学体験教室があったし、いろんな形でクリスマスの集いがあった。節分の集い、子どもたちとともに親子で来るなど、最近は特に多い。親子で文化センターを利用するということは、くらやみ祭りでは余り使わない。お囃子ぐらい。

お料理教室とか。

行事への参加ですね。

行事の参加はとても多い。

行事もいらぬのでは。

地域で行う催しとあるので。

子どもたちの参加も催しの中と考えれば。参加で。

出番とは、仕掛ける側という意味になる、運営側。意味合いとしては。

参加はお客さん。

その中に含む。私はそんな感じでとらえている。1つのコーナーをつかって自分たちが運営する。「参加」を含めてやってやればいい。そういう場をこの催しものの中の一つのコーナーを持つみたいな意味合いで考える。参加というふうになっていくイメージを私はとらえていた。もっとこの辺ではそれこそ学び返しではないけど、初めは参加だが、中学生ぐらいになった子はお手伝いとかそういった形でその運営にかかわって一緒に準備をするとか運営するとかそういったことも認めてあげる。そういう取り組みみたいな形になったらもっと文化センターのそういう機能も。実際に皆さんされているだろうと思う。

今の説明だと出番の方がよろしいか。

- ➡ 出番のままにする。

いい言葉だと思う。

参画という言葉は難しいか。

出番というと明らかにわかる。

出番っていうともうちょっと上の、感じ。

- ➡ 5番の「一般的に講座を受講しても話を一方的に聞くことになりがちである。その後の質問やディスカッション等ができる」。これはまず省略から。「ディスカッション等ができる終了後の受講者交流等も有効である」、今のは省略でよろしいか。もう1つの省略でない方は、「ディスカッション等を活気あのものにするためにも終了後の受講者交流等も有効である」。

有効であるという部分が活きるのだから「活気のあるものにするために」はいら  
ないかもしれない。切った方がすっきりするような気がするが、皆さんいかがか。  
できる終了後の受講者につながる。

それでいいと思う。

私たちがNPO法人でやっているその講座をやるのだが、その講座の後は、必ず  
参加者と交流会を開くというふうなことは心がけている。その方がお互いに学んだ  
ことも一緒に振り返ってそこで確認をしあうことができる。それと講師の先生と接  
続することができるということでそれは必ずやるようにしている。

それをやっているところはたくさんある、実際に。ここではないけども、僕が参  
加しているところでは必ずある。1週間に一遍ずつある。そういう交流会というの  
は必ずやる。

いかがか。その後の質問やディスカッション等ができる終了後の受講者交流等も  
有効である。

それで結構だと思う。

➡ 「～できる終了後の受講者交流」ということで。よろしいか。

次はちょっとややこしいが、これは青字で書いてある部分が1つ。それからグレー  
の囲みで書いてあるのが1つ。同じことを言っている。青の方から。「その後の  
別のほかの講座でも仲間が受付にいるということだけでも勇気づけられる」という  
案と、それからまた上記の講座の受付について、「上記」のところを取ったものだ  
から、「また講座の受付について言えば、同じ場所に集まった仲間と受付にいると  
いうことが受講者を勇気づけるのではないか」と2つ案がある。

どちらの案を活かすにしても最初に、前に切ったところもつたいない。

➡ つながっていたのだろうけど、そこ切ったから……

上を切ったら下もこれ全部切らないといけない。でも考えようによっては居場所  
づくりとしてそんなに大役を仰せつかるわけでもない講座の受付係というのは非  
常に居場所づくりにとっては有効な手段であることは確かだと思う。軽い仕事から  
中にだんだん入っていくというふうなことを考えると、とても非常に賢いやり方だ  
と思うが、もとのあれを復活させたらどうか。

では提案だが、それを活かしながら、そして最後の「さまざまな活動へと関係が  
持てるよう次から次へとつなげていくことが大切だ」というところにつなげて整備  
していくということによろしいか。

結構です。

➡ 前の文章を5番に持ってくるということによろしいか。

5番の中。終了後の受講者交流等も有効であるというその後の文章だが、そこを  
もう少しわかりやすく、だけど受付をやるところからつながっていくこともあると  
いう部分をうたえばいいのか。

今まで具体例とか例というのはほとんど提示しなかったから、ここで入れなくて  
いいのでは。「受付にいるということだけでも」というのは。

勇気づけられるというだけで切る。そこもいらぬ。受講者交流等も有効である。  
そこで切る。ちょっとここ残させてもらって先に進んでいただきたい。

- ➡ 5番を飛ばして6番。外出の「外」が抜けていた。6番は外出する、外を入れていただきたい。「外出することが難しい高齢者には、寺子屋の設置を提唱したい」、それで中の部分を削る案があり、「地区内の空き家等を活用し、高齢者がいつでも好きなときに集まれる場所を確保する」というふうになっていて、「また、学童保育や各種塾等に行っていない子どもたちやその父兄も町内寺子屋に行けば世代間での交流が生まれる」と短くする案がある。長い案は、ほぼ全文どおりだが、いかがか。

一般論として外出することが難しいというと、たとえ居住地域内でも難しいのでは。

- ➡ 例えば遠くに外出することが難しい高齢者とか...  
最初は遠出すると...
- ➡ 「遠出」ですか。すみません、訂正します。  
あとは「てにをは」を考えていただければ切っただいて構わない。  
短いのでいい、黒い字だけで。  
展開のところなのですが、 を課題の1に対応させて、恐らく伝統文化を次世代に継承するということが出たのだろうと思うが、やはりこれは後ろに持っていく方がいいのか。
- ➡ わかりました。展開の方も1を6に変える。今のところは削る案ということでしょうか。  
はい。
- ➡ 8ページ。3の新しい学習活動支援。ここも現状のところは削るということで見えていただければと思うが、いかがか。学習活動を行うことができる施設が充実しており、生涯学習を推進する役割を果たしている。  
いいです。それでわかる。
- ➡ 最後から3行目は、「またスポーツ活動への支援として指導者を派遣、各スポーツ大会の開催をしている。これらの施設以外でもさまざまな講座、イベント等が数多く取り組みが行われている」  
いいです。
- ➡ このとおりに、課題 のところも括弧を取って詰めていただきたい。地区公民館講座の提供。ここの最後のところで、「ようであるとの声も聞かれる」のもちょっとまどろっこしいので、「不足しているとの声も聞かれる」としてある。  
「との声も聞かれる」のところは人に責任を押しつけるような感じがするが、よろしいか。
- ➡ 実はうちが主管なので。というのは、いわゆる公民館講座、地区公民館講座というのと、これはただ地区公民館で比較して社会教育事業で無料の講座なので、それと学習センター等で全市的に行っている講座と多少分けてあって、地区公民館講座でやっているのはいろんな制限がある。文化センターには専門職員がいないので、料理教室とか映画会とかおはなし会とか人形劇とかということが中心になっていて、より専門的な内容は学習センターとかあるいはグリーンプラザとかというふうになっている。ここは課題と言えるのかどうかちょっと難しいと思うが。事実は事

実ということ。

事実ですよ。いつも同じような講座が行われているのは確かだから。

だからこそ遠慮気味に幾分という言葉を入れた。

- ➡ 不足していると言い切ってしまうていいのか。

切っていいと思う。

幾分不足している、でまる。

- ➡ ここで意見があったのは、高齢者の生涯学習のきっかけづくりというふうに「高齢者」となっているが、これは団塊の世代ではないかとか、あるいは高齢者や団塊の世代だけの問題ではないのではないかという意見が出された。高齢者の生涯学習のきっかけづくり、1番。それから2番が団塊の世代の生涯学習のきっかけづくり、3番がただ生涯学習のきっかけづくり、この3つの選択肢なのだが。

高齢者というのはどの辺からを高齢者という表現の使い方をするのか。団塊の世代と高齢者を同じような含みで入ってきているのではないかなと思うが。

団塊の世代もあと何年かしたら高齢者になる。

高齢者は65歳以上。団塊の世代は今だと60歳から65歳ぐらいの間。

あるいは生涯学習というのは生まれたときから最後までという部分があるので、全くそこを抜いて生涯学習のきっかけづくりと終わらせるというのもあるが。

その方がいいかもしれない、広くて。

限定しない方が。

- ➡ では取ってよろしいか。生涯学習のきっかけづくりということで。

「生涯学習のきっかけづくり云々は難しい問題である」でまるで切って、その部分を傍線を引いて、「自分で一歩踏み出せる人は友人などとの情報交換を通じて参加が期待できるが、一歩踏み出さない人をどのように支援するかが問題である」ということで課題ですが。

- ➡ そこはそういうふうにする。展開の、ここもかぎ括弧取ってもらって、これは非常に大事だというふうに強調が入っている。それから「開催するなどしたり」を取って、開催するなど学習情報の発信を云々、それから「文化センター」を「各文化センター」。これでよろしいか。

はい。

- ➡ それから。これは最後のところ、講座後のディスカッションをはじめとした、これさっきのとかぶるが、を切ってこういう機会を提供する。よろしいか。

- ➡ 次に大きな4番に入ります。ここ一番ちょっといろいろあってわかりにくいですが、情報提供相談体制。これは行政の方の仕組みとも関わる。現状ですが、これはどうか。平易な表現にしたいというふうに最初の3行ですけども、読みます。「情報提供相談体制の1つとして、府中NPOボランティア活動センターでは市民がボランティア等自発的に何か活動したいと思ったときの第一歩を後押しする一助となる市民活動を推進している」これは難しいか。

いいと思う。

そんな難しいことない。

よろしいか。

- ➡ これはこのままで。  
それからここも、実は最初の「はじめに」で、第2次府中市生涯学習推進計画を「推進計画」とするというふうにしたので、「生涯学習においては全推進計画において」となっているが、これは正確に言えば平成11年の第1次府中市生涯学習推進計画ですが、どうするか。こういうふうに入れた方がいいか。  
そういうふうにしていただきたい。
- ➡ 生涯学習においては、平成11年に作成した第1次府中市生涯学習推進計画でカレッジ・インフォメーションと称して府中生涯学習に関する相談情報提供を行うことを生涯学習センターで実施している。カレッジ・インフォメーションについては脚注を入れた。  
課題 情報提供。これもかぎ括弧取っていただきたい。高齢者のお宅を訪問すると、広報誌等は、これは「し」は雑誌の「誌」ですね。手元にあるものの介護保険などの情報が掲載されていても読んでいない場合などの状況が見受けられる。読んでない等の状況が多々見受けられる。ここはどうか、くどいとか...  
例えば介護保険等の情報が書いてあったことは切るわけですから、多少短くなるが。  
「広報紙等は手元にあるものの介護保険等の情報が掲載されていても読んでいない場合が多々見受けられる。」等の状況を取って、「場合が多々見受けられる。」  
それでよろしいか。  
はい。
- ➡ ではそのようにする。  
3番、カレッジ・インフォメーションの拡充と活用というふうにした。カレッジ・インフォメーションをどのように市民にPRし、機能させていくか。これは課題となっていて、あとの展開の方で出てくるが、カレッジ・インフォメーションを発展的に解消して生涯学習サポート体制というふうにして第2次の推進計画でうたっているのだから、これはこれでよろしいか。  
はい。
- ➡ では展開の 高齢者だけでなくすべての世代において口で伝えることは非常に大事である。家族や身近な友達から広がっていく口コミと傾聴は大事な機能である。事例の体験談を聞けるような体制もつくり、それをサポートできるようなやり方も考えたらよい。  
これでいいか。  
結構です。
- ➡ みずからの能力の活用や学習活動をしようと思っても未体験の人にとってはその場所、機会を探すことは容易ではなく大変である。例えば文化団体がいろいろなことができる可能性を追求して団体を組織しているように、地域に出ていくのをサポートする場所として生涯学習支援施設（学習センターを中心に）とリンクさせて、ここでできるような相談窓口が必要であると。ちょっと長いですが、いかがか。  
必要だからいいと思う。
- ➡ 次。ただし、学習相談の窓口は毎日開いていないと機能しないので、例えば交通

至便の府中駅の情報センターに（これは市政情報センターか）サテライトを置く等PRする方法を将来的に考えてはどうか。

はい。

よろしいか、これ。情報センター……

市政情報センター。

- ➡ 、これ囲み取っていただきたい。カレッジ・インフォメーションの発展的拡充は推進計画の中で市民の学習をサポートする体制として検討されている（生涯学習サポート体制の整備）のでぜひ実現していただきたい。それでちょっと具体例を取って、周知の方法も広報、ホームページだけではなくて自治会単位の回覧板に挟めるようにすればもっと知ってもらえるのではないかと思うが、御意見として、回覧板というのは一部アパートの住民には回覧されていない実情があるという意見があるが、ここはどうか。

回覧板を私ははずしていただいてもいいと思う。私も、市からものすごくたくさん情報を回覧板で回してほしいと来るが、いろんなところで取捨選択してそのままフィルターにひっかかって下の方に行かないケースがあってもったいない。広報とホームページだけで十分ではないか。

これは僕が意見出したのだが、やはり不平等に繋がると思う。回覧板だと。町内費を出していない家には回っていないし、それから小さなアパートではほとんど見せてないし、知らなかったと言われるとこれまた問題なので、やはりはずした方がいいのではないかと思う。いろんなほかの広報の場があるから、回覧板というのは別になくてもいいのではないかと思うが。問題は平等化だけ。知らなかったと言われると困る。実質的に回していないから。

町内会自体が出ないところが多い。回覧板をはずすとどういう言葉になるのか。

- ➡ 周知の方法も広報、ホームページだけではなくてさまざまな工夫を行う必要があるとか。

そうですね、それでよろしいか。

- ➡ ではその最後のところですが、具体的には次のようなことを提案したいというふうに「・」でいろいろとあるが、これも御意見として、その「・」の部分は、来年度の答申に盛り込むためにもう少し議論したいという意見があったが、いかがか。

来年度の答申というのは最終答申ということか。

- ➡ 最終答申です。今回の答申が全体的にすべてにわたって広く浅くなっているのに対して、来年はもう少し具体化に向けてということなので、こういう具体的な提案が恐らく多くなると思うが。

ここでまた細かくやらないで時間をかけてこの部分を次の答申の中にもうたわせていただければと思うが、いかがか。

その方がいいと思う。

ではそのようにお願いしたい。

1つだけそこにつけ加えてよろしいか。6ページの下から7行目の町内寺子屋だが、高齢者の寺子屋というの。寺子屋というのは小さい子どもたちの寺子屋が普通だが、ここは寺子屋とせずにせっかく「学び返し」を使っておられるのだから、学

び返しの小屋とか。普通はコンティニューイング・エデュケーションといって連続的な教育の場というが、寺子屋はちょっとおかしいのかなと。これはまた次の検討でやっていただきたい。

次の検討の中にそれも1つ入れるということで。

雰囲気をもろうということですね。

大学ではフラタニティー (fraternity) という。同じゼミにおったのは世界中でフラタニティーというが、これだったら同地域の会合の小屋とか、小さく言えばそうなる。でもそれではつまらないからせっかく「学び返し」、この高齢者はやはり積極的に学び返しに参加するのだから。だから学び返しの小屋とかなんとかまた別に名前をつくられたらいいのではないか。統一的な見解で。

次の課題として。ありがとうございます。

➡ 5番の推進体制。現状については、最初のところはやはり「市民に利用されている」は取って短くして「利用されている」と言い切っている。これはよろしいか。はい。

➡ それから課題で文化団体との連携ということ。3行目に、より文化団体のいろいろな活動について縦のつながりがあっても横のつながりが余りないというふうに、これは横縦とはどういう意味かということがあったが、例えば、「文化的な活動は、社会教育団体(自主グループ)が非常に幅広い活動を行うため」というところ。例えばグループの中では情報の交換があるけれども、グループ同士の横の情報の交換がないとかという言い方に替えていいのかどうか。どうでしょうか。

それは実態だけでも。

要するに今の実態はコミュニティ協議会で各文化センター、つい最近3月に1回あるが、あれは文化センターだけのお祭りと、それからここの生涯学習フェスティバル、それから文化連の文化祭、そういうふうなのがあっちこちでやっていて、文化センターの催しものも文化団体連絡協議会の中に入って運営されているというのが文化連の表紙になっているが、それなのにまた文化センターが集まってやるというのが何か私たちもちょっと横のつながりがどうなっているのかというような考えがあって多分こういうふうなのが出てきているのかと。体育指導委員のやり方の比較みたいなのをちょっと言わせていただいたと思う。

これはスポーツの分野は問題にならないのか。文化の領域での横のつながり縦のつながりを大事にしないといけないということを言っているのか。

そうですね。

この文章を読みますとね、スポーツと文化がもっと交流しなければ、そういうふうに感じる。

協力しあわなきゃいけないという印象を受けるので。

同じように運営されていくのが当たり前ではないかというのを入れて。

連携が何も無いわけか。

スポーツ団体と文化団体が連携するということを求めているのか。

違うと思う。

スポーツの方はどんどんと割といいふうに運営されているが、生涯学習の方は意

外と転々ばらばらやっているというような印象を受ける。

そしたら課題の文化団体との連携じゃなくて文化団体相互間の連携とか。

そうですね。疑問がわくような文章の仕方はおかしい。

スポーツは例えばスポーツはという、たとえ話...

文化団体のだけでもいい。文化団体との連携ではなくて。

A B CとあったらA B C別々にやっているという話だろう。

そこら辺は意図よくわかったので...

- ➡ グループの中のつながりはあってもグループ同士の横のつながり、文化団体同士の連携は余りないという形で文章考える。

つながりがないとだめなのか。それぞれ文化団体がそれぞれの趣向というか、興味、関心に基づいて会を組織しているわけだろう。踊りをやっているチームと絵を描いているチーム当然違う。ですからその団体の違いを何らかの形でつながなければいけない状況っていうのは何なのか。それぞれがやっていていいのではないか。趣味とか、興味、関心とかそういったところでやっているのだからそのつながりをあえて、混同しなくても現実に例えば市民文化祭みたいなものを年1回会場いろんなところでやっている。そういういろんな団体さんの作品を展示したり発表会なんかの形を、交流する形としてできている、現実に。それ以上にさらにそのつながりを別の会をつくって協議会みたいなものをつくってやらなければいけないということをここで言わなければいけないのかと逆に思った。今で十分なのではないか。

今でも十分だが、意外と皆さん知らない。やっていること自体。お互いにPRするとか、そういうものが必要なのではないか。

もっと必要だという意味か。

望ましいという部分でよろしいか。

- ➡ 学習センターの方の現状でいうと、今のフェスティバルみたいな会があるときに、いろんな会が集まってくれるのはなかなか難しい。つまりここを1つの施設利用という形だけで利用されているから、じゃあフェスティバルやりましょうと言ったときに、その裏方をやる人が非常に少ない。裏方は今まで悠学の会というボランティアさんにやっていただいていたが、それがだんだん量が多くなって、また大変になってきたので、去年から実行委員会をつくってグループ同士の代表の方に集まってもらって、裏方とかPRとかをやらしてもらおうというふうにだんだん変わってきた。それが横のつながりの必要性ということ。

繋げていくことによってまたそこで「学び返し」が発生するかもしれないということになる。

そういう意味の縦のつながり横のつながりということか。

踊りと習字のあれを一緒にしようというわけでは別れない。

- ➡ 踊りをやっている習字の方がうるさいとかいう話になると困るので、よく話してもらわないと。

そこら辺はその意図が伝わるような文言を考えさせていただくということで。

- ➡ そこはそういうふうに書き直す。



その次の「文化とスポーツを両輪のようにして推進していくことが必要なのではないだろうか」という表現と、それから書き直していただいた表現が「文化にも何らかの形で横の情報交換が必要である」と考える。よって、文化とスポーツが車の両輪のごとくになって事業化推進していく」

いらないか。

スポーツは最初うまくいっているという例でほんと上げておいて、あとは

➡ ここは全部削ってよろしいか。はい、わかりました。

はそういうことでグレーの部分以下は削る。

生涯学習センターの「について」はいらないのではないかとということ。

いらない。

➡ 学習センターについては平成 15 年の約 48 万人をピークに年々利用者が減少しているの、原因を分析し、必要に応じて指定管理者制度などの民間活用の導入が必要なのではないかでしょうか。

はい。

➡ 課題です。3 番、他施策との連携。学校教育プラン 21 との整合性をもって「学び返し」が行われているかどうかの検証は必要なのではないかと。これも課題だが、よろしいか。

1、2、3 の課題に対応して展開の 1、2、3 があるが、ここが非常に赤が多くて。まず 1 の文化団体との連携。今、お話をしたところに関連した展開だが、社会教育関係団体の情報共有。削った部分を読んでみる。「社会教育関係団体や文化関連団体全体の情報の共有が必要である。互いに団体の交流を深める研修があってもよい」でよろしいか。

委員が言われた他の団体との交流が必要かどうかということ。

情報の共有は必要か。

そういう場はあるのか、ないのか、今までに。

ない。

最初のときは、公民館がある時代は公民館として指導者を集めて話し合いをするとか、中高生を集めて私塾的になってはいけないというそういう指導はしていたが、最近私塾的になっていって、お互いにあっちでこっちで何しているのだろうという、私塾的になって 1 週間で 2,000 円ぐらい取ってやっている会とか、その申請の様子を共有するみたいな、社会教育の方で把握していると思うので、そういうので、例えば各団体の公表というのは、ここは問題があるなとかお互いに認識する。みんな逃げよう逃げようと思うだろうけど、やはり私塾化の抑えみたいなのは必要ではないかと思う。

文化団体の運営の仕方の情報交換ということか。内容まで入れないのか。

内容は入れない。

文化連に入っている人たちは結構交流するが、入っていない団体、個人だったり、連盟にも入っていないような団体が以外と市外の人が多かったり、水増しをしたりとか、そういう情報を耳にするから、そういう横の交流をしながら情報交換をしていくとか。

互いの団体の交流を深める研修の場がいいのか。

- ➡ 「研修」を「場」にして。「場があってもよい」でよろしいか。1番はそれで。また具体的にはまた最終答申でお願いしたい。

「場が必要である」と。あってもよいではなくて。

あってもよいなんて言ったらなくてもよいというふうになってしまうから必要であると。

- ➡ 今、社会教育関係団体は1,200以上ある。学習だけで。体育は400ありますからあわせて1,600以上。非常に多い。

2番。「生涯学習センターは生涯学習ボランティアの活動が充実している。市民の力を活用することで活性化を図りたい。そのためには周りを巻き込んでイベントが実施できる人材育成をしていくことが望ましい。利用者が減ってきているのにはそれなりの理由があるし、増加させるためには市民の意見を聞くなどニーズにあった企画が望まれる」と、以上だが、その段落までどうするか。今の切った案。四角は関係ないので。四角の部分は意味がわかりにくいと言われたが。

生涯学習センターは生涯学習ボランティアの活動が充実している。市民の力を活用することで活性化を図りたい。それで切るのか。

- ➡ 「そのためには周りを巻き込んでイベントを実施できる人材育成をしていくことが望ましい。」

そこで切るということではよろしいか。

はい。

- ➡ ちょっとわかりにくいのが利用者数が減ってきているというのは学習センターなのか、全体が。

そんな当たり前のこと書くことはないのでは。理由があるなんて。当たり前。利用者数が減ってきているのはそれなりの理由があるし。こういうことまで書くのか。

- ➡ 必要がなければ削るように。

しかしあれでしょう。行政の方としては学習センターの利用者が減ってくるというのは非常に困った現象なのでしょう。ふやしたいなのでしょう。そしたら課題の2番に対応するとしたら何かやはり残しておかないとまずいのではないか、展開として。

- ➡ これは後にも、利用者が減っているその原因を調べなければいけないというふう

に書いてあるので、ちょっとくどいかなという感じはするが。

後でよろしいか、こちらでまとめさせていただくという形で。

- ➡ 2番目の傍線部分は切るところではよろしいか。

「望まれるの」後にだが、これも切っていいか。地域の人との出会いの場として云々というの。まず全体として減ってきているのか詳しく分析する必要があるとか、あるいは「学び返し」あるいは地域の人々との出会いの場としてそれを利用してもらう方法を考えたいとか。

切ってもよろしいか。

- ➡ これに対しては審議会の仕事であるという御意見もありますが、こういう分析をすること事態が。どうなのか。

それは審議会の仕事なのか。

- ➡ そういう御意見が委員の中からあるので。

私が言ったのだと思うが、そのことが見えてこないというか理解できないと提言の具体的な中身がはっきりしないのではないかと思った。だから何かそれなりの理由があったり、そういった状況をこの場で説明してもらい、皆さんに理解していただいて、どういうことを提言すればいいのかとかいう具体的な話に持っていくには、そこを曖昧にしていたらまずいのではないかというふうに思ったが。この中間で出す必要はないと思う。

そうですね。「終わりに」の中にその必要性を問うということもできる。

- ➡ 様々なデータを集めた説明をこちらでして審議会の方で判断するということか。

ちょっと戻ってすいませんが、このページの3行目ぐらいの、周りを巻き込んでイベントを実施できる人材育成という表現がちょっと気になっているが、イベントを実施するのは組織なので、ここは企画とか提言をする人材とした方がいい。

そういうことが実施できる人の規制というのは必要。その文言を入れるということは、イベントを実施できる人材育成が望める。

実施というのは組織がやるのかなと思った。企画とか提言とかそういう人が必要かと思った。

時間が大分押してきているので。

これは生涯学習センターの今後についての展開ですから、どういうふうに今後やっていくか、まとめてもらうしかない。事務局で。

- ➡ 2番のところもう1回読ませていただく。「生涯学習センター、生涯学習ボランティアの活動が充実している。市民の力を活用することで活性化を図りたい。そのためには周りを巻き込んでイベント実施できる人材育成をしていくことが望ましい」、全部取りまして、「市民の意見を聞くなどニーズに合った企画が望まれる。まず全体としてはなぜ利用者が減ってきているのか詳しく分析すべきである」

次はちょっとややこしいが、「学び返し」あるいは地域の人との出会いの場として」ずっと飛ぶ。「生涯学習センターに「学び返し」の機能を集中させることが効果的である。」ということによろしいか。

異議あり。というのは、この課題 生涯学習センターの今後というのが非常に重要なテーマだと思う。そこに対応する展開なので、これはもう少し明瞭な文章に書き換える必要があるのではないか。この中に盛り込まれている主義、主張を活かしながら。例えばその最初の2行、12ページからだが、ボランティアの活動が充実していると。これはプラス。そしたらその次の文章は市民の力を活用することで活性化を図りたいとぼんと来たら、おかしな話になってくると感じる。プラスで来てここはマイナス。充実しているのになぜ活性化が必要なのかということになる。だからこれはそれぞれ正しいことを言っているのに、もう少し全体として整理しなおす必要があるのではないか。大事なところ。

御意見を伺っておいて、それこそ時間的に押してきているので「終わりに」までをさせていただいて、皆さんの御意見を伺った中でもしできたら一任していただければ。

➡ 今の御意見をもとにして、もう少し整合的に書き直しを会長、副会長に一任ということではよろしいか。

はい。

➡ 2番は学習センターで、3番の課題が他施策との連携で、学校教育関係である。これも意味がわかりにくいというふうにあるので、ちょっと書き換えた文章があるので、読ませていただく。「学校教育プラン 21、そして第2次生涯学習推進計画の重点課題にある学校・家庭・地域の連携を中心に両計画の整合性を図っていく。またその実現を目指してファシリテーターを養成し、地域のボランティア活動を推進し、あらゆる生涯学習の機会を導く」こういうふうには書き換えさせていただきたいが、いかがか。意味が非常に難しいので。

ファシリテーターという言葉も出てこないと展開としてはだめだろう。今、読んでいただいたものでよろしいか。

➡ 四角の部分の文章で、この4行をこういうふうには書き直した。「学校教育プラン 21、そして第2次生涯学習推進計画の重点課題にある学校・家庭・地域の連携を中心に両計画の整合性を図っていく」これが1つ。「また、その実現を目指してファシリテーターを養成し、地域のボランティア活動を推進し、あらゆる生涯学習の機会を導く」2つの意味、ここは。課題の方はさっき言ったの部分です。

よろしいか。

わかりました。

➡ では最後。「おわりに」。ここは3行目。「また人々の自発的活動による社会参加から生まれる伝承と学びは市民一人ひとりが生涯学習をより身近な自己のものとするための助けとなるであろう」が1つ。それから削除のところだが、「これを具体化し、連携が実現していけば団塊の世代を含むシニア世代を中心とした各世代の学習活動の場の提供、きっかけづくり、情報の交換が図られ」、そこを取って、「府中市学校教育プラン 21 との連携も同時に推進できるような施策を検討、討議することも必要である」。推進計画なので、推進できるような施策を検討推進というのが重なっているので、討議の方がよいかと思うが。

では「討議」で。

はい。

➡ 最後のところ。このさき 10 年間を見据えて、同推進計画ではあるが社会状況等の変化により柔軟に対応することも必要である。当審議会も府中市の発展のために努めていきたい」というふうに分けたが。

よろしいか。

はい。

➡ 最後の御意見はそこにあるように、用語の統一とか文章を短くするとか、あるいは平易な表現をしていただきたいとか。最後に全体としては、プロとアマ、子どもと青少年、それからファシリテーター、要するに「学び返し」をするときの「学び返し」をする高齢者、シニア等学び返しを伝承されるところの子どもたちとか児童の関係をもっと具体的に、教えられる方は楽しいか楽しくないかとか、教えられる方が参加するかしらないかということも含めて検討すべきではないかというのを

入れる。

これからの課題だと思う。子どもという部分が漢字が出たりひらがなが出たり。子どもと言えばひらがな。

それと先ほどの6ページのところも一任させていただいてよろしいか。6ページの「一般的に、講座を受講しても」よろしいか、のところから。

それでできあがったものは1回事前に確認させてほしい。

今皆さんと審議した内容、それから未確認のところは申しわけない。会長、副会長に一任していただき、それを織り込んだものを次の会議までに皆さんのお手元に早く届くように事務局をお願いしていきたいと思うので、よろしいか。

はい。

ありがとうございます。

それでは中間答申案についてはこれでよろしいか。ありがとうございました。

それではその他に入って、次回審議会について事務局お願いする。案はあるか。

- ➡ 3月29日月曜日、午後2時、府中市役所の北庁舎3階の第3会議室を押さえてある。

前回もあったが、どの場で教育長にお渡しするかという部分だが、もし審議会に教育長にお出でいただけるなら。

- ➡ 時間は2時から2時半までは教育長空いている。ただ3時からまた別の公務があるので、ちょっと危惧していたのは、もう一度また議論するということになるので2時に集まってもらうと30分使ってしまうので。

間に合わないのでは、設定が。

- ➡ ですから教育長の予定はまた別に取るという形にならざるを得ないかと。

答申としては年度だからこれでやるのだろうけど、その我々の会合をもうちょっと前に1回開いて、今の整理したものを確認するような場が必要ではないか。

- ➡ この部屋でしたら大丈夫。

それは必要でない。

そういうことと言えばかなり深くお話を皆さんからお聞きしているので、もしそれが。

委員長一任ということでもいいか。

本当はもう1回前にやられるといいと思うが、中間答申ということでもしあれしただければと思う。そしてまた次回からは次の答申に向けて、先ほど取り残されたいろいろな課題があるので、それに今度は深く審議していきたいと思っているが、いかがか。

それでいいと思う。

「てにをは」がおかしいとか、余り激しい変更はちょっとお許しいただきたいと思うが、ちょっとここという部分があれば早めに事務局の方に連絡いただければ私たちそれを受けていきたいと思うが、そういう形でよろしいか。

了解。

ありがとうございます。

- ➡ 29日は教育長にお渡しするというのでよろしいか。

皆様の前でお渡しさせていただけたら。

➡ 皆さんお集まりということによろしいか。

審議会をやるということになると最低2時間ぐらい御議論をいただかなければいけないので、教育長に、例えば先ほど申しました2時か2時半の間にお渡ししてから、例えば来年の議題について議論いただくということによろしいか。

2時から4時を予定している。

## 7 その他

次回開催日程について、以下の日程で開催する事が決定した。

全体会：3月29日(月)午後2時～4時

府中市役所北庁舎3階 第3会議室